

近畿建設新技術活用通信

第11号 (VOL.11) 2021.9.30



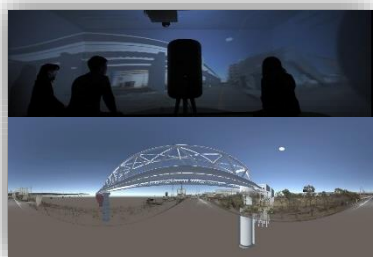
も く じ

1. 巻頭記事：近畿インフラ DX 推進センターが近畿技術事務所内に開設・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 近畿インフラ DX センター（DX 研修のご案内と研修受講の受付、施設見学のご案内）・・・・・・・・・・ 2
3. 現場取材：「NETIS 登録された新技術を使っている現場を取材してきました」・・・・・・・・・・・・ 3
4. NETIS：新規に登録された新技術（令和 3 年 1 月～6 月）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
5. NETIS：新技術活用の進捗状況（令和 2 年度）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
6. NETIS：新技術活用の進捗状況（令和 3 年 4 月～6 月）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
7. 新技術活用評価会議だより（令和 2 年度第 4 回会議の開催状況）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

近畿インフラ DX 推進センター

～ 官民の人材育成拠点として、近畿技術事務所内に開設！ ～

令和3年4月1日、全国に先駆けて、インフラ DX を推進するための官民の人材育成拠点として近畿技術事務所内に「近畿インフラ DX 推進センター」が開設されました。新たに整備された3つの施設と今後予定されている研修について紹介します。



● **「WEB 会議ルーム」**：来場された方にインフラ DX に興味を持っていただくため、3次元の体験や最新技術の情報発信を行います。部屋には、360°プロジェクターを備え、VR を用いて3Dデータや新技術を体感していただくことができます。



● **「研修ルーム」**：ここの2室では、3Dデータを操作できるタッチパネルを備え、3次元ソフトを用いたDX研修全般を行います。



● **「建機オペレーションルーム」**：無人化施工機械を操作できる機器とマルチモニターを備え、建設機械を遠隔で操縦する実習を行うことができます。

インフラ DX を推進していくためには、データの重要性を理解し、デジタル技術を活用できる人材が必要です。人材育成に関しては、国・地方公共団体の職員だけでなく、地域の建設業に携わる技術者も対象とした研修を開催していきます。これまでに、3次元モデルに関する基礎知識を習得する「BIM/CIM 研修入門編」と、3次元ソフトの基本操作を習得する「BIM/CIM 研修初級編」を開催しました。今後、施工データ作成や遠隔での出来高管理・検査などの知識を身に付ける「BIM/CIM 研修中級編」を開催する予定です。

また、特に市町村からニーズが高い課題として、小規模施工における ICT 活用工事の基礎知識を習得する「ICT 活用入門研修」、ICT 活用工事の起工測量から3Dデータ納品までの各段階における監督・検査のプロセスを習得する「ICT 活用研修初級編」についても開催しました。今後「ICT 活用研修中級編」を開催する予定です。

DX 研修の詳細は近畿インフラ DX 推進サイト、または QR コードをご確認下さい。



<https://www-1.kkr.mlit.go.jp/plan/infraDX/dxkensyu.html>

ICT を活用して新3K（給料が良い、休暇が取れる、希望が持てる）を一緒に目指しましょう。

DX（デジタルトランスフォーメーション）はデジタル技術を活用して人々の生活をよりよく変革することを意味しており、単に仕事をデジタル化することを目的とするのではなく、デジタル技術を活用し業務のプロセスや働き方を、便利に、効率的に変えていくことを目指しています。デジタル技術やデータを活用し、安全性や生産性の向上、可視化、住民とのコミュニケーションの向上など、様々な課題解決や業務の改善・進化につなげていきたいと考えています。

近畿インフラDX推進サイトは、<https://www-1.kkr.mlit.go.jp/plan/infraDX/index.html> です。

近畿インフラ DX 推進センター

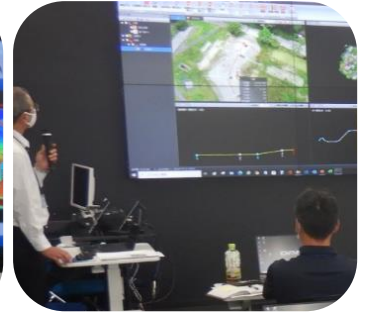
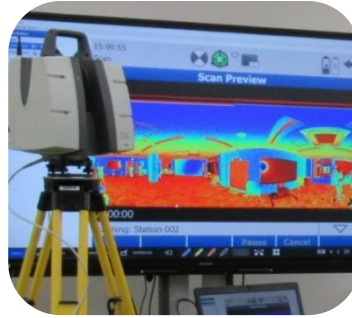
～ DX 研修・施設見学を受けつけています ～

1. DX 研修のご案内

実施している研修の一部をご紹介します。

● ICT 活用研修（施工者向け）

職員、業界の生産性向上や働き方改革を目指した ICT 活用工事の普及に向けて、3次元データを測量から施工、検査等に活用し、ICT の知識や技術を学ぶための研修を行っています。



● 無人化施工研修（施工者向け）

土砂災害等の被災現場では、作業員の安全を確保し迅速な復旧作業が求められます。無人化施工技術の知識や有視界における遠隔操作を学ぶための研修を行っています。



〈受講申し込みの受付〉

DX 研修（ICT 活用研修（発注者向け）、ICT 活用研修（施工者向け）、無人化施工研修）は、現在受講申込受付中です。是非お申し込みください。

申込方法等詳細は近畿インフラ DX 推進サイトをご確認ください。

<https://www-1.kkr.mlit.go.jp/plan/infraDX/dxkensyu.html>



2. 施設見学のご案内

施設見学では、近畿インフラ DX 推進センター内の 4 つのルームを順番にご案内しています。動画の視聴や 3D モデルの操作体験なども含めて、約 1 時間で施設内をご覧ください。

来場者の方からは、『インフラ DX についての取り組みがよく分かった』『3D モデルをタッチパネルで操作体験でき、BIM/CIM を導入すると、こういったことが楽になるのか、イメージが付きやすかった』などの声をいただいております。



これまでに、多くの方が施設の見学にお越しくございました。国や地方公共団体職員などの関係機関はもちろん、地方議会議員や東海地方の建設業の方などもいらっしゃいました。電話での見学希望のお問い合わせも多数いただき、みなさまのインフラ DX に対する関心の高さを感じています。

近畿インフラ DX 推進センターでは、随時、施設見学を受け付けております。ご興味のある方は、ぜひ下記の HP からお申し込み下さい。

近畿インフラ DX 推進サイトは、<https://www-1.kkr.mlit.go.jp/plan/infraDX/index.html> です。

※施設見学ができる日時は、平日（9:30～1600 終了）のみで、基本的に予約制になります。

NETIS 登録された新技術を使っている現場を 取材してきました！

近畿技術事務所 技術開発対策官 須山友貴

このコーナーでは、NETIS 登録された新技術を実際に採用して頂いている現場を訪問し、採用して頂いている新技術の紹介や発注者様・施工者様のリアルな声を紹介いたします。

工事の紹介

本コーナー第1回目は、京都市内の現場を訪問しました。京都府を流れる桂川の大下津地区の築堤工事の現場です。大下津地区自体が、昭和の頃、既に築堤事業として決定しており、現在工事中の箇所は最後まで残っていた工区です。現在は新しい堤防（新堤）を築堤中で盛土工全17層の内、4層目まで終わっています。

現場：京都市伏見区淀大下津町地先

工事名：桂川大下津地区他整備工事

発注者：国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所

受注者：株式会社岡野組

採用新技術：①インテリジェントマシンコントロールブルドーザ(KT-130104-VE)

②現場仮設ソーラーシステムハウス(CB-120016-VE)

採用新技術の紹介

①インテリジェントマシンコントロールブルドーザ(KT-130104-VE)

機体制御技術と ICT 技術を活用した、全自動ブレード制御機能搭載のブルドーザです。従来は、オペレータが丁張を目視して、ブルドーザのブレードを手動操作していましたが、その作業が不要になりました。(写真-1、2 参照)



写真-1 インテリジェントマシンコントロール
ブルドーザ



写真-2 同 (ブレードは自在に動きます)

現場の声：

ブルドーザのオペレータの声

やり直しが無いから、
早く仕事が終われる。
丁張を見なくていいのはラク。

悪くなった点というのは、
正直無い。

やり直しがなくなった、
というのが大きい。

受注者の声

デメリットは、強いて言うならば、
新人の教育の場が無くなる。
きちんと原理を理解した上で、
扱う方が良い。

現場管理のための元請け職員の数・
労務時間を減らせる。
あと技術的なことを行うための時間のロス、
やり直しが大幅減になる。

出来高管理や進捗管理が、
人間の目からパソコンで
確認出来るようになった、
というのは便利。

工程的なメリットは、
かつては測量に一日かかっていたが、
それが無くなるどころ。現場業務が減って、
工事の実作業に早く取り掛かれる。

発注者の声

監督側もかつては立ち合いに行き確認していたが、データとして全部残っ
ていくので、それを出してもらっただけで管理できるのは非常に便利。

②現場仮設ソーラーシステムハウス(CB-120016-VE)

環境・経費・工事期間に配慮した現場仮設ソーラーシステムハウスです。

従来は、商用電源に依存した仮設ハウスや、商用電源に依存出来ない場所では、発電機を使用し
ていました。(写真-3 参照)

皆さまの声：

ソーラーだけで
使えるので、
場所を選ばない。
非常に便利。

曇りや雨が
続いても
使えなくなる、
ということはない。
蓄電量は
減るけれど。



写真-3 現場仮設ソーラーシステムハウス
(ハウスは車載型です)

お礼

淀川河川事務所桂川出張所、受注者の皆さま、取材にご協力頂き、ありがとうございました。
(写真-4 参照)



写真-4 現場でのヒアリング

新規に登録された新技術

令和3年度近畿地方整備局受付 (令和3年1月~6月)

近畿地方整備局において令和3年1月1日より6月31日までに新技術情報提供システム(NETIS)へ登録した新技術は32技術で、その概要は表-1のとおりです。

登録状況については、前年の同時期の38技術と比較して約16%減です。

登録された技術の区分は、製品が12技術、システムが10技術、工法が7技術、機械が2技術、材料が1技術でした。製品技術・システム技術・工法技術の合計で約9割となり、残りが1割となっています。製品技術の登録が多くなっているのは、メーカー側の参入が増加したためと考えられ、新技術への関心の広がりを感じます。工種別の登録状況では、トンネル工が5件、仮設工が4件、土工と共通工が各3件、5工種で各2件、7工種で各1件となっています。工種に偏りがあることから、年間で多く活用される工種と一致していません。工種別に関しても、メーカー側の開発技術が多く登録されています。また、ソフトウェア関連会社との連携により開発される技術も、近年、増加する傾向があり、デジタル化への胎動を感じます。

各技術とも現場の省力化、安全性や品質向上等に着眼した技術となっており、技術の活用により生産性の向上が期待できます。

表-1 新規登録した32技術 (令和3年度 近畿地方整備局登録 1月~6月)

技術名称	作業者安全モニタリングシステム						
53	登録番号	KK-200053	区分	システム	工種		その他
副題	ヘルメットに後付けしたセンシングデバイスによるリアルタイム安全管理システム						
技術概要	本技術は、作業者の熱中症などの安全管理などをリアルタイムで行うシステム技術です。						
技術名称	カメラ式人検知システム						
54	登録番号	KK-200054	区分	システム	工種		トンネル工
副題	人の接近を自動で察知し停止、接触事故等を未然に防ぐ装置による安全対策						
技術概要	本技術は自走式建設機械を運転時、建設機械に設置したカメラに人物が写ると、警報を発し建設機械を強制停止させるシステム技術です。						
技術名称	瓦骨材利用薄層舗装Eco Kawara スーパーコート						
55	登録番号	KK-200055	区分	工法	工種		舗装工
副題	瓦骨材利用薄層舗装						
技術概要	本技術はカラー薄層舗装工において、骨材に廃瓦を破碎した材料を使用した工法技術です。						
技術名称	粉じん・侵食防止剤「ストーンウォール」						
56	登録番号	KK-200056	区分	製品	工種		仮設工
副題	固結層を形成する飛散・粉じん・侵食防止剤						
技術概要	本技術は土壌表面の防じん・侵食防止対策に散布して使用する製品技術です。						
技術名称	現場業務支援アプリ「FIELD-TERRACE」						
57	登録番号	KK-200057	区分	システム	工種		土工
副題	測量機器と接続し、「座標、図面、3D設計データ」を利用して現場測量(位置出し、測点設置、丁張設置)を行う現場業務支援アプリ						
技術概要	本技術は、測量機器(TSやGNSS等)と接続する事で一人の技術者で現場測量が行える現場業務支援アプリのシステム技術です。						
技術名称	360° LEDヘッドライト「HALO(ヘイロー)」						
58	登録番号	KK-200058	区分	製品	工種		道路維持修繕工
副題	高視認・広視野で働く人の安全を守る360° LEDヘッドライト						
技術概要	本技術は既存のヘルメットに装着する360° 照らすLEDヘッドライト製品の技術です。						
技術名称	トンネル補助工法向け注入システム「fair-system」						
59	登録番号	KK-200059	区分	システム	工種		トンネル工
副題	注入作業のリアルタイム監視、情報有効活用化						
技術概要	本技術はトンネル補助工法(AGF工法)に使用する薬液注入機をICT化したシステム技術です。						

60	技術名称	道路照明向けLEDランプ					
	登録番号	KK-200060	区分	製品	工程	電気通信設備	
	副題	LEGAランプ-R					
	技術概要	本技術は、道路照明等において既存のランプから容易に取替可能なLEDランプの製品技術です。					
61	技術名称	急勾配法面对応ラジコン式草刈機「スパイダー」					
	登録番号	KK-200061	区分	機械	工程	河川維持	
	副題	ウインチ搭載ラジコン草刈機					
	技術概要	本技術は、ウインチ併用で最大斜度55°の法面を安全に除草作業できるラジコン式草刈機です。					
62	技術名称	浅層埋設管路用高硬度鑄鉄製防護板					
	登録番号	KK-200062	区分	製品	工程	共同溝工	
	副題	浅層管路又はケーブルなどを舗装カッターによる破損・切断事故から防護する防護板					
	技術概要	本技術は、舗装版切断工において、浅層にある電線管路等を切断刃から防護できる高硬度鑄鉄を使用した防護用製品技術です。					
63	技術名称	ドラゴンウォール					
	登録番号	KK-200063	区分	工法	工程	共通工	
	副題	PCaブロックを固定金具で連結しながら積み上げ、内部に胴込めコンクリートを打設する事で重力式擁壁を構築するハーフPCa重力式擁壁					
	技術概要	本技術は、ハーフプレキャスト部材を組み上げ内部にコンクリートを打設する重力式擁壁工法の技術です。					
64	技術名称	水路付歩車道境界ブロック					
	登録番号	KK-200064	区分	製品	工程	共通工	
	副題	組み合わせ水路と歩車道境界ブロックを一体化した縁石ブロック					
	技術概要	本技術はφ300相当水路一体型歩車道境界ブロック製品の技術です。					
1	技術名称	入退場レーザーセンサー					
	登録番号	KK-210001	区分	システム	工程	仮設工	
	副題	駐車場や現場出入口における車両の通行をセンサーで検知し、周辺の歩行者に注意喚起を行う装置					
	技術概要	本技術は駐車場や現場出入口の車両通行をセンサーで検知し、周辺の歩行者へ注意喚起を行う装置技術です。					
2	技術名称	重機接触防止装置、ハットとセンサー					
	登録番号	KK-210002	区分	システム	工程	土工	
	副題	重機に設置した超音波センサーにより重機周辺の人・物を検知し、オペレーターや付近にいる作業員及び第三者に注意喚起を行う作業安全補助装置です。					
	技術概要	本技術は重機等に設置するセンサーにより重機周辺の人・物を検知し、オペレーターや付近にいる作業員及び第三者に注意喚起を行うシステム装置の技術です。					
3	技術名称	データ共有クラウドサービス「CIMPHONY Plus」					
	登録番号	KK-210003	区分	システム	工程	CALS関連技術	
	副題	工事で活用する写真や3次元データを時間軸と位置情報で管理。3次元地図上に可視化して現場空間を再現し、状況や進捗の確認・共有を支援するデータ共有クラウドサービスです。					
	技術概要	本技術は、写真や3次元データを時間と位置情報で管理し3次元地図上に可視化して現場状況を確認する技術です。					
4	技術名称	弁慶(ノンセバ柱型枠工法)					
	登録番号	KK-210004	区分	工法	工程	コンクリート工	
	副題	コーナー部一体成型ステンレス製型枠による柱構築工法です。					
	技術概要	本技術はコーナー部一体成型ステンレス製型枠によるコンクリート柱の構築工法です。					
5	技術名称	PC箱桁橋CIMシステム「CIM-BOX」					
	登録番号	KK-210005	区分	システム	工程	橋梁上部工	
	副題	PC箱桁橋のCIMモデル、3D寸法線、BIM/CIM設計照査シートの作成、およびCIMモデルによる施工管理の高度化を支援するシステムです。					
	技術概要	本技術はPC箱桁橋の設計・施工に特化した、CIM-3Dモデルをパソコン上で製作するソフトウェアシステム技術です。					
6	技術名称	配管用レーザー					
	登録番号	KK-210006	区分	機械	工程	上下水道工	
	副題	下水管等の敷設時に勾配を設定するレーザーです。					
	技術概要	本技術はレーザー光で雨水管や污水管の勾配等を確認・管理できる機械技術です。					
7	技術名称	杭先端チャッキング機構併用既存杭引き抜き工法(TK工法)					
	登録番号	KK-210007	区分	工法	工程	共通工	
	副題	ピン連結の上爪・下爪によるチャッキング機構により、既存杭先端を支持しながら既存杭全長を完全に引き抜き撤去可能です。					
	技術概要	本技術は、杭先端チャッキング機構併用既存杭引き抜き工法(TK工法)の技術です。					

8	技術名称	M-Pシステム				
	登録番号	KK-210008	区分	製品	トンネル工	
	副題	面ファスナ付トンネル裏面排水材と横断排水接続部の特殊継手を使用し、確実な導水と止水を行う排水材です。				
	技術概要	本技術はもやいドレーンに面状ファスナーを取り付けた製品及び塩ビソケットもしくは高密度ポリエチレン管直管継手、EVA、ブチルテープを一体化させたトンネル裏面排水材です。				
9	技術名称	オクトバスキャップ				
	登録番号	KK-210009	区分	製品	トンネル工	
	副題	座金隠蔽型ロックボルト用のキャップです。				
	技術概要	本技術は、トンネル工におけるロックボルト頭部より防水シートを保護する製品技術です。				
10	技術名称	垂直油圧昇降式タワーライト				
	登録番号	KK-2100010	区分	製品	仮設工	
	副題	高性能ランプで高位置から広範囲に照射できるLED投光器				
	技術概要	本技術は、LED投光器に高性能ランプかつ油圧昇降式を備えた技術				
11	技術名称	ブロックマット用高摩擦遮水シート				
	登録番号	KK-210011	区分	製品	河川維持	
	副題	ブロックマットの滑り止め効果を付与した遮水シートです。				
	技術概要	本技術はブロックマット工における遮水シート製品の技術技術です。				
12	技術名称	鉄筋の腐食・劣化から素材を守る水溶性コーティング剤「ディフテック」				
	登録番号	KK-210012	区分	製品	コンクリート工	
	副題	錆発生防止効果の持続性が高い耐久性のあるアクリル樹脂系防錆コーティング剤です。				
	技術概要	本技術は鉄筋に直接塗布する雨水、酸化、塩害等の外的要因より保護するための製品技術です。				
13	技術名称	道路照明柱の地絡箇所検出装置				
	登録番号	KK-210013	区分	製品	電気通信設備	
	副題	地楽モニタ				
	技術概要	本技術は道路照明柱に地絡が発生した際、その場所を目視にて特定できる製品です。				
14	技術名称	高温水を用いた雑草抑制技術				
	登録番号	KK-210014	区分	工法	道路維持修繕工	
	副題	高温水道路除草システムを活用し、ガードレール下のガッター部に生息する雑草抑制技術です。				
	技術概要	本技術は、道路除草工において高温水を散布することで雑草を枯らす除草工法の技術です。				
15	技術名称	橋上操作型ADCPによる河川流量土砂量計測システム				
	登録番号	KK-210015	区分	システム	調査試験	
	副題	ADCPによる洪水時流速・流量・浮遊砂量・掃流砂量、同時観測システムです。				
	技術概要	本技術はADCPセンサー搭載橋上曳航ボートにより流量データと同時に浮遊砂量データ、掃流砂量データを遠隔操作で取得・解析できるシステム技術です。				
16	技術名称	おもりによる振動抑制「GMD工法」				
	登録番号	KK-210016	区分	工法	環境対策工	
	副題	地表面上におもりを置くだけで近隣に伝わる工事振動を低減する技術です。				
	技術概要	本技術は、地表面上におもりを置くだけで近隣に伝わる工事の振動を低減する振動対策工法です。				
17	技術名称	防水シート用ICT加圧・負圧試験機「QCsmart」				
	登録番号	KK-210017	区分	システム	トンネル工	
	副題	加圧・負圧試験のICT化によるデータ管理と自動帳票作成				
	技術概要	本技術は防水シートの溶着や補修部の漏気確認で用いる試験機をICT化することにより、試験の可否判定、帳票作成を自動化したシステム技術です。				
18	技術名称	オイルシャット				
	登録番号	KK-210018	区分	材料	環境対策工	
	副題	油分で汚染された土壌の油膜油臭を瞬時に除去して土木資材等に活用するための油分浄化材料です。				
	技術概要	本技術は油汚染土壌に添加・混合攪拌することによって土壌中の油膜と油臭除去を除去し、浄化できる材料技術です。				
19	技術名称	レポートシステム				
	登録番号	KK-210019	区分	工法	仮設工	
	副題	手すり先行方式の緊結式足場(抜け止め機能付き)				
	技術概要	本技術は、手すり先行工法に対応したくさびの抜け止め機能を有したくさび緊結式足場の工法技術です。				
20	技術名称	物体検知・警報機能搭載型ミニショベル「後方ガードセンサ」				
	登録番号	KK-210020	区分	製品	土工	
	副題	ミニショベルで作業中に後方で人、障害物を検知すると、警報音とランプ点灯でオペレータと周辺作業者に知らせる装置です。				
	技術概要	本技術は日立ミニショベルの後方を赤外線で人物や障害物を検知すると警報とランプ点灯で知らせる製品技術です。				

近畿地方整備局における新技術活用の進捗状況

(令和2年度)

令和2年4月から令和3年3月までの総工事発注件数は1,686件、新技術を活用した工事件数は592件で、新技術の活用率は35.1%となっています。

令和2年4月から令和3年3月の1年間における新技術の活用状況について、去年同期と比べ、新技術を活用した工事件数は29件、活用率は4%、いずれも減少しました。活用方式は、2,760技術のうち、52件が発注者指定型、残りの2,708件が施工者選定型で活用されています(図-1、図-2参照)。新技術を活用した工事件数では、17現場が発注者指定型、575現場が施工者選定型となっています。

令和2年4月から令和3年3月の近畿地方整備局において、最も多く活用された新技術の工種は「仮設工」で、「土工」、「コンクリート工」、「CALS関連技術」、「共通工」の順に活用されており、順位の傾向は全国的に類似しています(表-1参照)。また、上位3工種で約60%程度を占めていることも令和2年度と同様の傾向です。

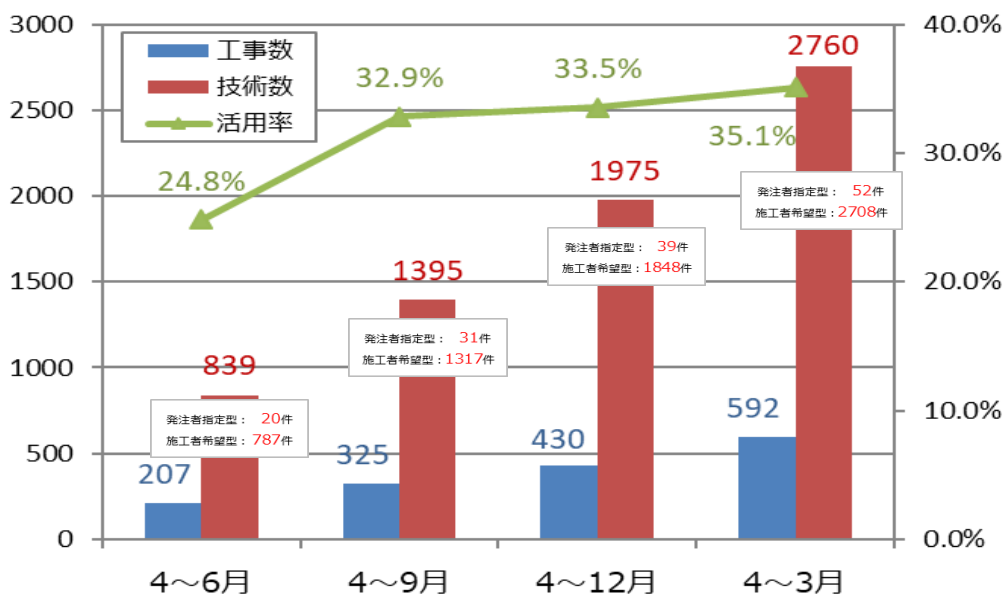


図-1 新技術活用状況 (令和2年度)

表-1 近畿地方整備局における工種別活用ランキング (令和2年度)

工種	活用件数
1 仮設工	755
2 土工	448
3 コンクリート工	406
4 CALS関連技術	328
5 道路維持修繕工	131
6 共通工	121
7 舗装工	107
8 調査試験	87
9 電気通信設備	66
10 港湾・港湾海岸・空港	55
10工種以外	256
合計	2,760

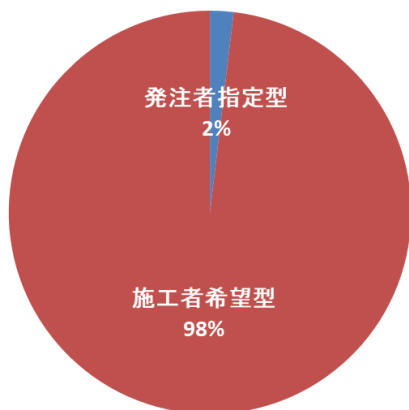


図-2 活用した技術件数の類型 (令和2年度)

近畿地方整備局における新技術活用の進捗状況

(令和3年4月～令和3年6月)

令和3年度4月から令和3年6月までの総工事発注件数は961件、新技術を活用した工事件数は138件で、新技術の活用率は14.4%となっています。

令和3年度4月から令和3年6月の3ヶ月間における新技術の活用状況について、去年同期と比べ、新技術を活用した工事件数は56件、活用率は10.4%、いずれも減少しました。活用方式は、587技術のうち、36件が発注者指定型、残りの551件が施工者選定型で活用されています(図-1、図-2参照)。新技術を活用した工事件数では、35現場が発注者指定型、103現場が施工者選定型となっています。令和3年4月から令和3年6月の近畿地方整備局において、最も多く活用された新技術の工種は「仮設工」で、「土工」、「CALs関連技術」、「コンクリート工」、「道路維持修繕工」の順に活用されており、順位の傾向は全国的に類似しています(表-1参照)。また、上位3工種で55%程度を占めていることも令和2年度と同様の傾向です。

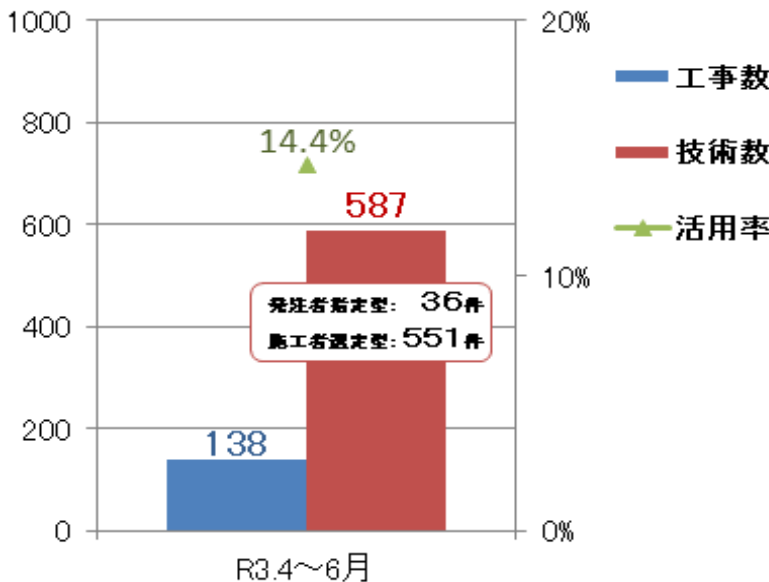


図-1 新技術活用状況
(令和3年4月～6月)



表-1 近畿地方整備局における
工種別活用ランキング
(令和3年4月～6月)

	工種	活用件数
1	仮設工	126
2	土工	103
3	CALs関連技術	92
4	コンクリート工	78
5	道路維持修繕工	39
6	トンネル工	26
7	舗装工	25
8	共通工	24
9	調査試験	13
9	港湾・港湾海岸・空港	13
	その他(14工種以外)	48
	合計	587

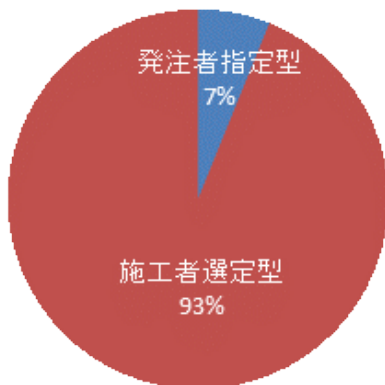
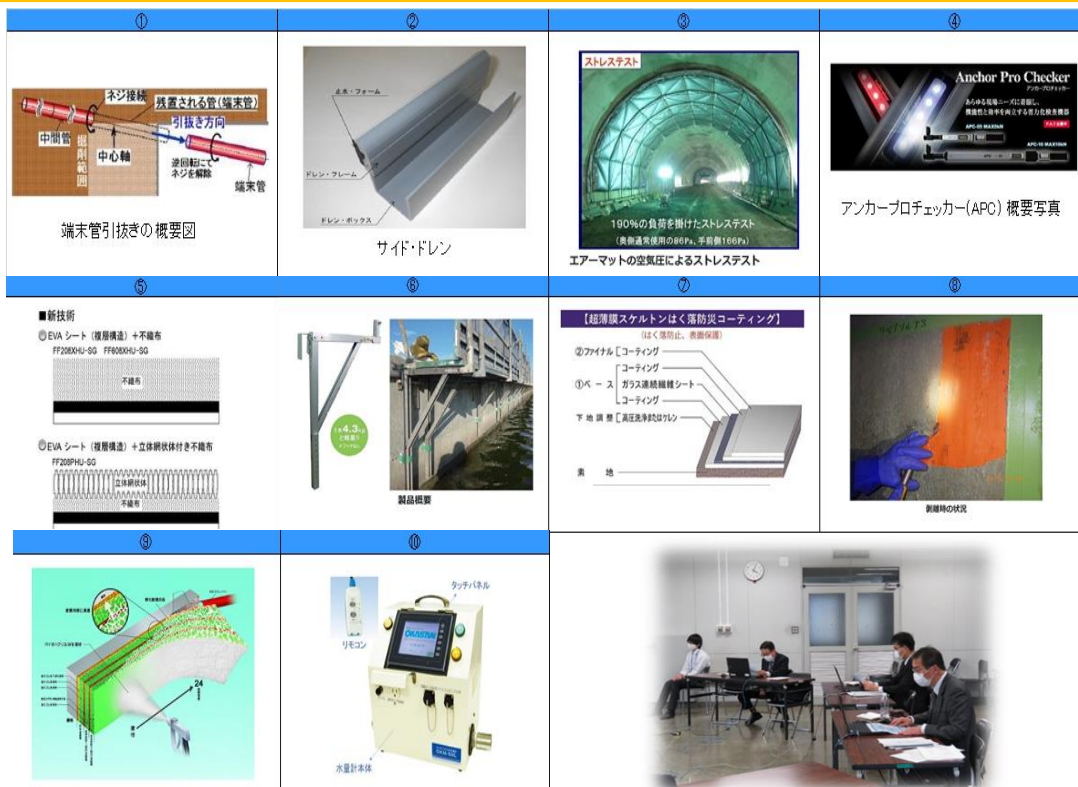


図-2 活用した技術件数の類型
(令和3年4月～6月)

新技術活用評価会議だより

～ 令和2年度 第4回会議の開催状況 ～

令和3年3月12日(金)に近畿地方整備局別館大会議室において、
リモートTV会議方式で開催しました。



今回の会議で審議された技術は、表-1のとおり、事後評価6件、再評価4件で計10件です。工種分類では、橋梁上部工1件、道路維持修繕工4件、トンネル工3件、調査試験1件、港湾・港湾海岸・空港1件でした。今回の評価会議では、計10件の評価技術のうち、有用な技術「活用促進技術」として5つの技術「サイド・ドレンⅡ型工法」「アンカープロチェッカー (APC)」「アルウオーク」「超薄膜スケルトンはく落防災コーティング」「タッチパネル式水量計」が承認されました。

また、近畿地方整備局が以前取り組んでいた「テーマ設定型(建設機械の安全装置)」について新たに報告がありました。ローラーの5技術については、R2年度に試験もすべて終わっており、ドラグショベルの12技術についてはR3年度に試験を実施して、技術比較表を公表する予定です。

表-1 審議された技術の一覧表

	NETIS登録番号	技術名	工種	分類	技術内容
①	CB-150001	端末管事前撤去型AGF工法 (AGF-TK工法)	トンネル工	事後評価	トンネル掘削における補助工法の長尺鋼管フォアバイリングについて、掘削対象範囲にある端末管を事前に撤去することで掘削時の地山の緩みを抑制し、施工精度・品質を向上させた工法
②	KK-150047	サイド・ドレンⅡ型工法	道路維持修繕工	事後評価	トンネル縦断方向、橋梁上部からの漏水対策工法
③	KT-140115	フリードームシステム	トンネル工	事後評価	自由変形型覆工養生装置
④	KT-150087	アンカープロチェッカー (APC)	調査試験	事後評価	アンカーボルト引張荷重簡易検査器
⑤	KT-150067	SGシート	トンネル工	事後評価	目視にて損傷確認が可能な複層構造のトンネル用防水シート
⑥	KKK-170004	アルウオーク	港湾・港湾海岸・空港	事後評価	アルミ製垂直傾斜面用足場ブラケット
⑦	CG-120025	超薄膜スケルトンはく落防災コーティング	道路維持修繕工	再評価	透明特殊コーティング材とガラス連続繊維シートの含浸接着による、透けて見えるコンクリート構造物のはく落防止機能(繊維シートを使用しない場合は小片はく落防止機能)付き表面保護工法
⑧	CB-170013	リペアソルPS工法	道路維持修繕工	再評価	鋼構造物用 水系塗膜剥離剤
⑨	KT-160043	パイオハクリX-WB	道路維持修繕工	再評価	鋼構造物用 水系塗膜剥離剤
⑩	QS-160009	タッチパネル式水量計	橋梁上部工	再評価	電磁流量計を用いた「現場での使いやすさ」と「安心」の練混ぜ水量計装置

~~~~~【インフラDX推進センターからのお知らせ】~~~~~

NETIS登録技術などの  
**動画公募**  
始めました

応募いただいた動画については、  
近畿インフラDX推進センターで見学者が閲覧できるようになります。

求める技術 ・NETIS登録技術 近畿技術事務所 技術活用・人材育成課  
・PRISM技術 kkr-new-tec@mlit.go.jp (TEL:072-856-1941)



もっとふれあうテクノロジー  
国土交通省近畿地方整備局  
近畿技術事務所  
〒736-0082  
大阪府枚方市山田池北町 11-1  
TEL : 072-856-1941

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and  
tourism, Kinki Regional Development Bureau  
Kinki Engineering Office

編集協力 一般財団法人先端建設技術センター



近畿建設新技術活用通信は近畿技術事務所のホームページでも公開中です。  
(<https://www.kkr.mlit.go.jp/kingji/develop/correspondence.html>)

近畿建設新技術活用通信

検索

